

インドネシア人介護福祉士候補者受入実態調査について（概要）

1. 調査時期・対象

（時期）本年1月28日（木）～2月17日（水）

（対象）20年度に入国したインドネシア人候補者を受け入れた受入施設（全53施設）

施設長・理事長、研修責任者、施設職員、利用者、利用者の家族、候補者本人に対して調査票を配布（回答数：39施設528人）

2. 結果概要

（受入れの目的）

- 候補者の受入目的としては、「国際貢献・国際交流のため」「将来の外国人受入れのテストケースとして」「職場の活性化のため」と回答した割合が8割～9割。
一方で、「人手不足の解消のため」という回答も5割弱存在。

（候補者の就労・研修状況）

- 夜勤を実施している候補者は3割弱。ただし、その多くは、日本人職員が付き添って指導しながら夜勤を実施している状況。
- 引き継ぎ・申し送りについては、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をすれば、何とか実施」が5割～6割。
一方で、「平易な言葉でゆっくり話をしても、一部支障あり（あるいは、ほとんどできない）」と回答した者も2割～4割存在。（施設長・理事長及び施設職員は2割、研修責任者は4割）
- 日誌や介護記録の理解については、「一部理解できていないが、概ね理解」が約8割。
一方で、「ほとんど理解できていない」という回答も1割～2割存在。

（候補者のコミュニケーション能力）

- 日本語でのコミュニケーションについて、「時々通じないが、ゆっくり話せば概ね伝わる」が6割～7割。
- 一方で、「コミュニケーション不足により問題事例が発生した」と回答した割合も3割～5割存在。（施設長・理事長及び施設職員は3割、研修責任者は5割）
具体的には、「指示内容を理解していなくても「分かりました」と回答」、「業務内容が伝わらず、業務に支障」、「服薬もれ」、「軽い事故」等といった回答があった。

（候補者を受け入れたことによる影響）

- 施設が提供するサービスの質への影響については、「変化なし」が5割～6割。（施設長・理事長は5割、研修責任者、施設職員、利用者及び利用者の家族は6割）

- 候補者が提供するサービスの質については、「概ね満足」が6割。「不満」はゼロ。(利用者への質問)
- 日本人職員への影響としては、「刺激になっている」「勉強になっている」がいずれも約6割。
一方で、「残業時間や出勤日が増加」と回答した研修責任者も約3割存在。

(候補者の日本語学習状況)

- 一週間の勉強時間は、「1～5時間」が5割。「6～10時間」が4割。
一方で、「全く行っていない」という回答も3%存在。